

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立小中一貫校思斉館小学部
校長 今泉 徹

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 - 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 - 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

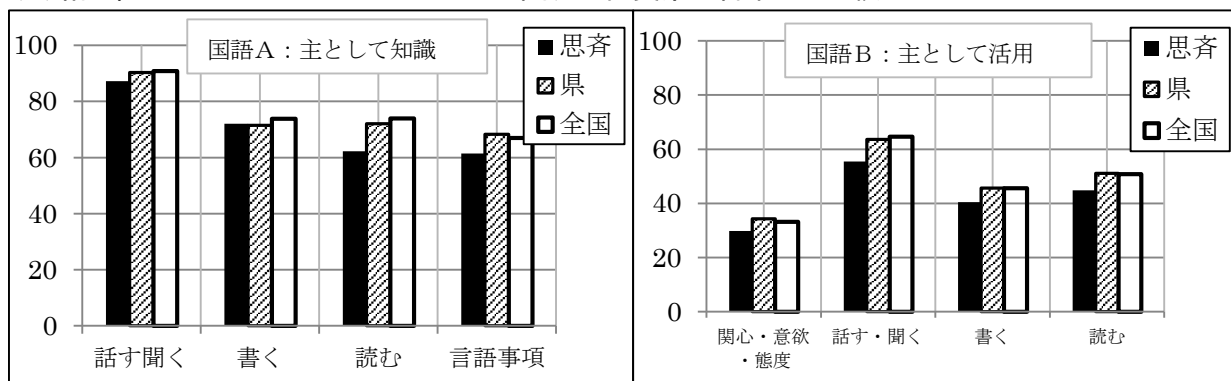
全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国及び佐賀県正答率との比較



教科正答率は調査ABともに、全国平均を 5 ポイント以上下回っている。また、全領域・全観点別にみても、正答率は全国平均を下回っている。特に活用に関する調査Bについては、全国との開きが大きく、課題がみられる。しかしながら、無解答率は全国平均よりも低く、課題に粘り強く取り組もうとする児童が多いことが分かる。

(2) 改善に向けての課題

話す・聞く

・計画的に話し合うために司会の役割を捉えることや、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題が見られる。話し合い活動の際は、話し合いを観点に沿って振り返り、参加者や司会者の役割を整理したり、互いの発言の意図を理解したりすることの大切さに気付かせる必要がある。

書く

・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書いたり、資料にある文を引用して、自分の考えが伝わるように書いたりすることに課題が見られる。引用する目的や、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にするなど、書く活動に取り組む際に児童が書く目的や意図を理解できるようにしていく必要がある。

読む

・目的に応じて、必要な情報を捉えること、複数の本や文章などを選んで読むこと、文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にしながら読むことに課題が見られる。何のため、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのか、という目的を明確にした上で、全体の構成を把握しながら読むようにしていくことが必要である。

言語事項

・文の中における主語と述語の関係などに注意して文を正しく書くことや、漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られる。主語と述語との関係については、表現するときだけではなく、文章を読むときにも意識できるように指導していくこと、また、書くことの学習とも関連を図り、自分で書いた文や文章を主語と述語との関係に注意しながら、読み返していく習慣を付けさせることが必要である。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 「自分の考えを持ち、友達と話し合い考えを伝え合う」学習を多く取り入れます。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、討論、案内や紹介など日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。

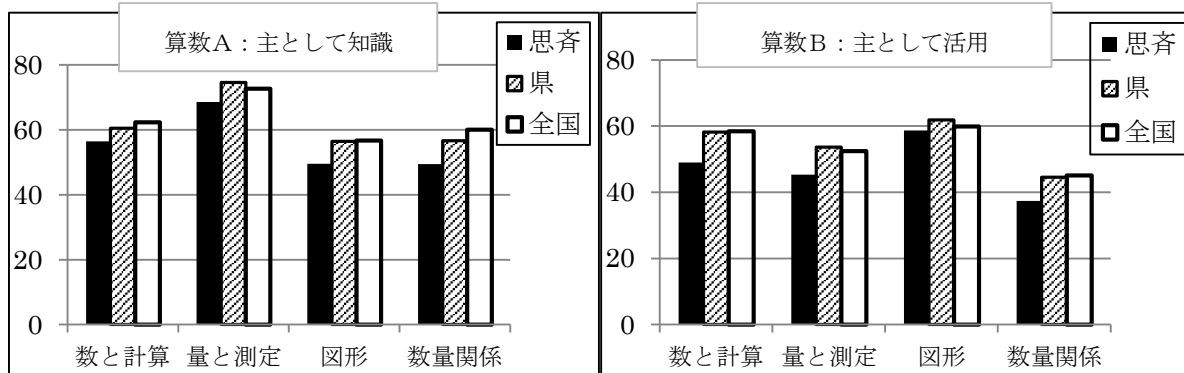
【ご家庭では】

- 家庭での読書の時間を確保しましょう。休みの日には、お子様と一緒に本を読んでください。そうすれば、本が好きで本を自然に手に取る子に育ちます。読書は国語の力を伸ばす最良の取り組みです。
- 音読は重要です。音読を毎日聞いてあげましょう。繰り返し音読することで、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。聞き終わったら、ほめ言葉をかけてあげてください。

2 算数

(1) 結果

全国及び佐賀県正答率との比較



調査Aについては、「図形」や「数量関係」は、全国平均正答率と大きな開きがある。調査Bにおいても「量と測定」や「数と計算」領域においては、全国平均正答率と大きな開きがある。無解答率はA問題では低く粘り強く取り組む姿勢が見られるものの、B問題においては、記述式問題で 10%以上の無解答率があるので、記述できなかった原因を考え、改善していく必要がある。

(2) 改善に向けての課題

数と計算

・小数のわり算の式の意味を理解し、それに合う問題文を選ぶことや、問題に示された考え方を理解しその結果を表に整理することで答えを求める問題などが苦手である。それで、授業の中で「式の意味を考える」問題や「表やグラフの読み方や使い方」など意識して丁寧に指導していく必要がある。

量と測定

・「 180° よりも大きい角の大きさを求める」問題や、「図形の角の大きさに関する」問題などが苦手である。日々の授業の中で、角の大きさを両手を使って体感させたり、ものの重さや長さ・かさなど直接比べたりする体験活動を多く取り入れていく必要がある。また、問題を解いていく過程を、式や図・文章などを使って詳しく記述していくことなども指導していく必要がある。

図形

・「図形の性質を基に角の大きさをかく」問題や「円の直径の長さや円周の関係や円周率の意味に関する」問題などが苦手である。指導にあたっては、いろいろな図形を自分でかく経験を数多く取り入れ、図形を構成している辺や角の関係について確実に理解させていく必要がある。

数量関係

・「百分率を求める」問題や、「メモの情報やグラフを読み取り判断する」問題などで苦手であった。日々の学習の中で、いろいろな数の情報を整理する時、表を使ったり、表にまとめてある情報を読み取ったりする活動や割合の問題などに数多く取り組ませる必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業では、「めあて・まとめ・振り返り」の一貫性のある授業を行います。また、自分の考えや解き方を図や数直線、言葉で表現するよう指導するとともに、それを説明したり、よりよい解決の方法を話し合ったりする活動を通して、思考力、判断力、表現力を養います。
- 火曜日の朝の時間に行う「チャレンジタイム」で四則計算の練習や、学習したことの復習を行っていきます。
- 少人数授業や担任教諭と少人数担当教諭とのT T授業の中できめ細やかな指導を行い学習内容の理解を目指します。

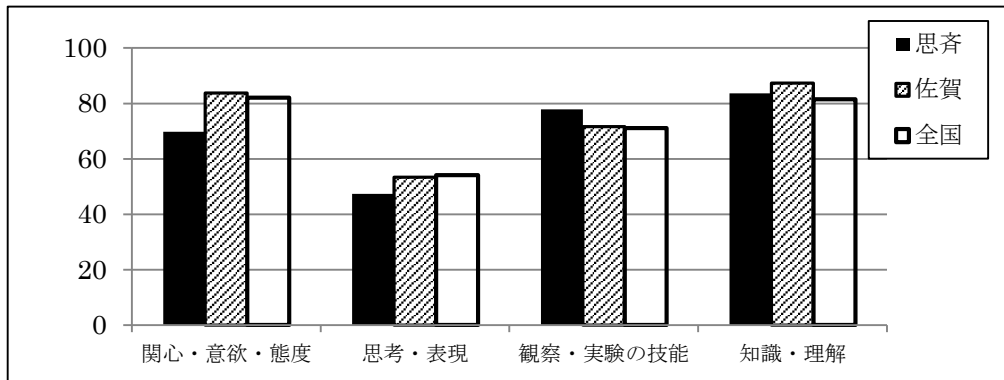
【ご家庭では】

- 毎日の宿題やテストなどにも目を通していただき、励ましの言葉やアドバイスをお願いします。
- 算数の苦手意識を克服するには、日常生活場面の中で、算数を意識的に話題にするのが効果的です。特に買い物などの場面は、数学的思考力を身に付けさせる絶好の機会です。台所には、調味料や飲み物の容器のラベルにm l や g などの単位が書いてあります。量や重さの感覚を養うにはとても有効です。

3 理科

(1) 結果

全国及び佐賀県正答率との比較



理科全体では、全国平均正答率とやや開きがある。「関心・意欲・態度」の観点が一番開きがあるが、「観察・実験の技能」の観点は、佐賀県や全国平均正答率よりやや上回っている。全体的に無解答率は低く、どの問題においても粘り強く取り組む姿勢が見られる。

(2) 改善に向けての課題課題

関心・意欲・態度

・野外での野鳥の観察においてどんなことに気を付けるかという問題であったが、これはあまり経験がなかったもので正答率が低かったと思われる。普段の授業では植物の観察や流れる水の働きなど自然現象についての観察はよく行っているので、これからも観察をする機会を多く持ち、その際に気を付けるべきことはなにかを考えさせていく。

思考・表現

・より適切でその条件にふさわしい考えをつくり出すために、実験結果をもとに考え、その内容を文章で書くことが苦手である。それで実験結果を表などに整理し、事実をはっきりさせ、その結果から考えられることを整理して説明する学習活動など、多く取り入れていく必要がある。

観察・実験の技能

・「ろ過の適切な操作方法を身に付けているかどうかを見る」問題では、約80%の児童が理解できていた。昨年度から、見通しを持たせた観察・実験を行い、自然事物・現象について実感を伴った理解ができるようにしてきた。実験の前に、必要な器具やその方法について、グループで話し合いをさせたりしたことが有効であったと思われる。

知識・理解

・「筋肉・肋骨・軟骨」などの科学的な言葉やその意味について理解が不十分であった。それで、学習したことをまとめる際に、たとえば「骨と骨のつなぎ目が関節という」などの言葉を、模型や実物と対応させて理解させていく必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業では、実験や観察の機会を多く取り入れます。
- 実験を行う前に予想を立てさせ、それを確かめるにはどのような実験が必要かを考えさせ、実験の方法や結果の見通しなどを話し合う場面を設定したり発表したりする活動を多く取り入れていきます。
- 観察をする際は、観察の目的や方法、気を付けることなどを考えさせます。

【ご家庭では】

- テレビで放送される天気予報を見て、家族で気象について話し合う機会を取りましょう。
- 昼の長さや太陽の傾き、風、気温、植物など季節の移り変わりについて、感じたり思ったりしたことを話す時間を取りましょう。
- お子さんが生活の中で、不思議に思ったことは、一緒に調べたり、調べる方法をアドバイスしたりしてください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》 当てはまると、どちらかといえば当てはまる割合

調査項目	本校%	評価	全国平均 %
毎日同じくらいの時刻に寝ている。	81.8	・	77.0
毎日同じくらいの時刻に起きている。	89.8	・	88.8
朝食を毎日食べている。	88.6	△	94.5
学校の決まりを守っている。	87.5	・	89.5
人の役に立つ人間になりたいと思う。	100.0	・	95.2
平日読書を30分以上している。	40.9	・	41.1
自分には、よいところがあると思う。	71.6	▲	84.0
将来の夢や目標を持っている	82.9	・	85.1
地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。	78.4	◎	36.1
今住んでいる地域の行事に参加している。	84.1	◎	62.7

就寝については約80%の児童ができていて、全国平均をやや上回っている。起床・朝食については約90%の児童ができてはいるが、全国平均をやや下回っている。朝食については、1日のエネルギー源でもあるので、家庭の協力を得ながら90%以上に伸ばしたい。

学校のきまりを意識して過ごしている児童は、90%近い。今後も決まりの大切さについて機会を見つけて指導していく。ほとんどの児童は人の役に立つ人間になりたいと思っているのでその気持ちを大切にしたい。平日の読書時間は、昨年度より伸びてはいるものの、30分以上読書をしている児童は約40%ほどなので、家庭との連携や図書室の有効活用などを図りながら、読書の推進をすすめていきたい。

自分にはよいところがあると思っている児童は約70%で全国平均より大きく下回っている。日々の生活の中でその子の良さを見つけ、育てていく指導を意識して行っていく必要がある。

ボランティア活動に参加したことがある児童は全国平均より40%ほど多く、昨年度より10%ほど伸びた。これは、中学部と協力をして地域のクリーン作戦を行う「全校ボランティア活動」に参加したり、地域のボランティア行事に参加したりしているからだと思われる。また地域行事への参加も多く、地域とのかわりが深いこともよい傾向にある。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	評価	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	25.0	・	29.3
平日1時間以上2時間より少ない時間勉強している。	50.0	◎	36.9
平日30分以上1時間より少ない時間勉強している。	22.7	・	23.8
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	98.9	・	97.1
家で授業の予習・復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	65.9	・	62.9
家で自分で計画を立てて勉強している。(どちらかといえばしているも含む)	70.5	・	67.6

平日2時間以上勉強している児童の割合が全国平均に比べてやや下回っているが、昨年度より全体的に学習時間は伸びている。宿題の取組も定着しつつあり、予習復習をする自主学習への取組率も伸びている。自分で計画を立てて学習に向かっている児童が70%ほどいることが伸びている結果だと思われる。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本とした復習中心の宿題を出します。高学年では、予習復習を含めた自主学習への取組を進めていきます。
- 中学部の定期考査に合わせて、「早寝・早起き・朝ごはん頑張ろう週間」と「家庭学習頑張ろう週間」を設定し、生活習慣の改善や家庭学習の定着を目指します。
- 児童の良さを見つけ、自尊感情を高める教育活動を今後も進めていきます。

【ご家庭では】

- 低学年の時から、決まった時間に決まった場所で学習する習慣をつけ、学習の様子に励ましや称賛などの声かけをお願いします。
- 「早寝・早起き・朝ごはん頑張ろう週間」「家庭学習頑張ろう週間」などの取組へのご協力を宜しくお願いします。

